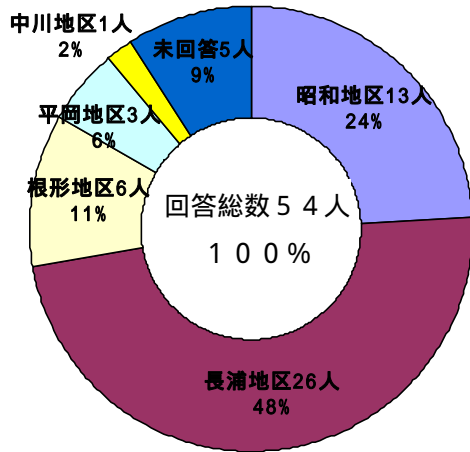


地域主導型の公共交通支援の実現に向けた意見交換会【長浦会場】
 袖ヶ浦市のこれからの地域乗合交通を考えるためのアンケート集計表

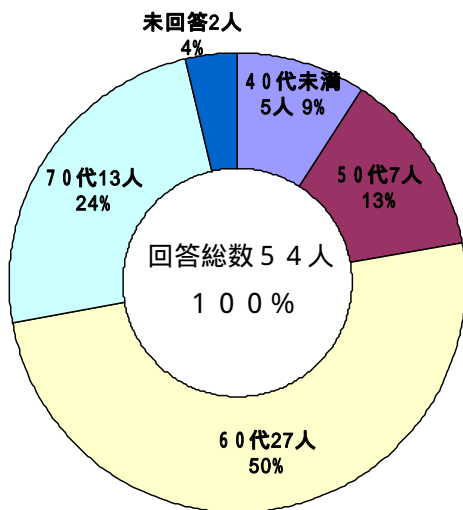
【回答者の属性】

お住いの地域



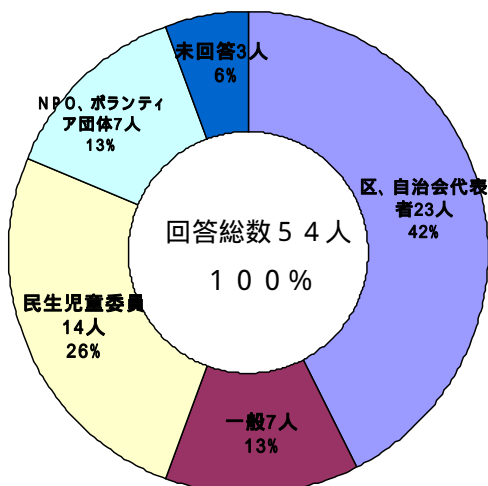
	回答数	構成比
昭 和	13	24%
長 浦	26	48%
根 形	6	11%
平 岡	3	6%
中 川	1	2%
富 岡	0	0%
未回答	5	9%

年 代



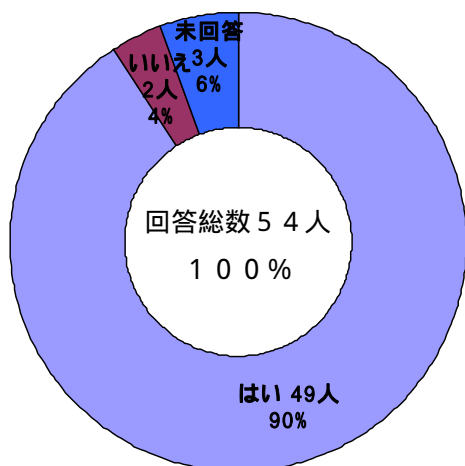
	回答数	構成比
40代未満	5	9%
50代	7	13%
60代	27	50%
70代	13	24%
80代	0	0%
90代以上	0	0%
未回答	2	4%

所 属



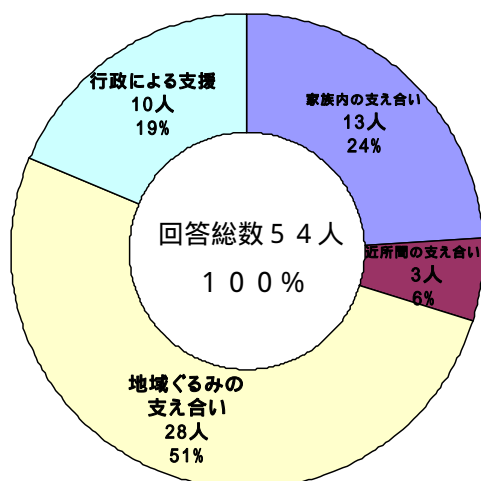
	回答数	構成比
区、自治会代表	23	42%
一 般	7	13%
民生児童委員	14	26%
NPO、ボランティア	7	13%
未回答	3	6%

問 1 : 木更津市波岡地区の事例を聞いて地域乗合交通に対して意識が高まりましたか。



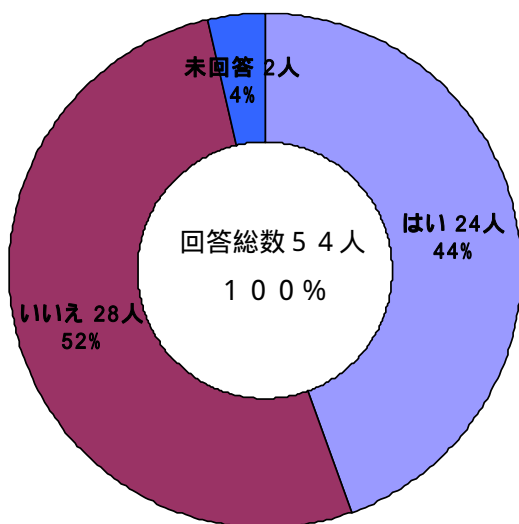
	回答数	構成比
はい	49	90%
いいえ	2	4%
未回答	3	6%

問 2 : 将来のご自身やご家族の交通（移動）手段についてどのようにお考えですか。



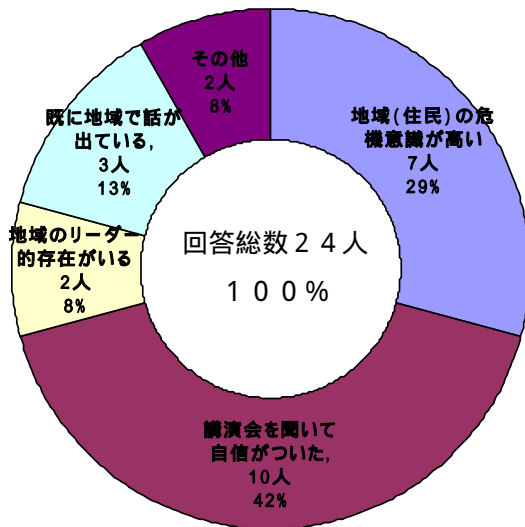
	回答数	構成比
家族内の支えあい	13	24%
近所間の支えあい	3	6%
地域ぐるみの支えあい	28	51%
行政による支援	10	19%

問 3 : 木更津市波岡の事例を聞いて、自分たちの地域でも住民主導での乗合交通が可能だと感じましたか。



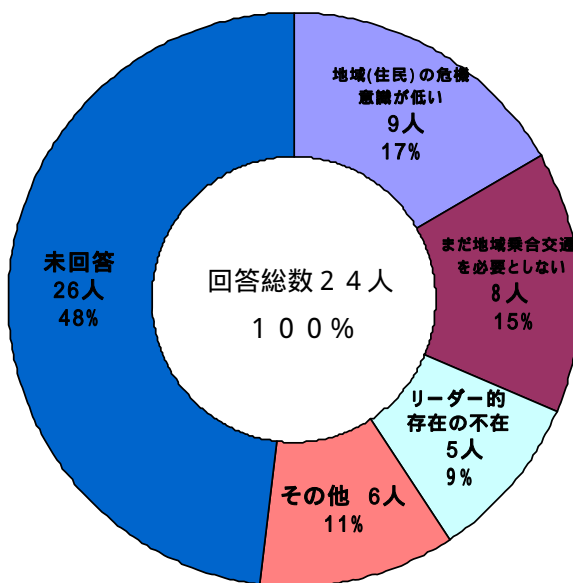
	回答数	構成比
はい	24	44%
いいえ	28	52%
未回答	2	4%

問4 - 1 : 問3で「はい」と選んだ理由を1つ教えてください。



	回答数	構成比
地域の危機意識が高い	7	29%
講演会を聞いて自分達も自身がついた	10	42%
地域のリーダー的存在がいる	2	8%
既に地域で話しが出ている	3	24%
その他	2	8%

問4 - 2 : 問3で「いいえ」と選んだ理由を1つ教えてください。



	回答数	構成比
地域の危機意識が低い	9	17%
まだ地域乗合を必要としない	8	15%
資金や設備がない	0	0%
リーダー的存在の不在	5	9%
一緒に運営する仲間がない	0	0%
その他	6	11%
未回答	26	48%

問5：意見等自由記載（長浦会場）

【60歳代 長浦】	現在は必要なし。近い将来必要。今から組織、リーダーを育てる必要を感じた。
【60歳代 長浦】	NPOで行うとNPOの負担が大きくなるのでコミュニティバス(行政が運行)が良いと感じた。個人的には協力する。
【60歳代 長浦】	公共交通等がある程度カバーしており自前の交通バスを立ち上げる必要性は今のところ感じていない。
【60歳代 長浦】	今後のボランティア活動に積極的に参加したい。
【60歳代 長浦】	ライフサポート波岡の活動は素晴らしい。会の運営の志に感動した。
【50歳代 昭和】	昭和地区は『ガウラ号・おでかけタクシー』の恩恵を受けていない。老人は定期的な通院があり家族の送迎負担が大きい。デマンド型タクシーを全市で行って欲しい
【60歳代 長浦】	自分の地域では水平展開できない。地域の特性として『自助の力』がある。
【60歳代 昭和】	社協のボランティア運行の拡大も可能だと思う。但し、病院に限った運行になる。
【60歳代 長浦】	以前より考えていたが、今後、地区で色々な話をしていきたい。
【70歳代 平岡】	もみの木台自治会は101世帯240人の小さな団地で61歳以上が約90人そのうち80歳以上が9名でそろそろ、乗合交通を考える時期に来たと感じている
【60歳代 根形】	住民自治、住民1人1人の意識が大切。少子高齢化が進んでライフサポート波岡の近藤さんのNPOボランティアの根本的な精神が参加になった。行政に頼るのではなく、小さなことでも自ら立ち上がる大切さを知った。
【年齢不詳 根形】	できること、できないことを明確にして、それで臨むブレないことが大切だと教えられた。考えることよりもまずは実行すること、これも生み出すことへの条件だと
【40歳代 長浦】	自分の地域では将来的に必要。高齢者、1人暮らしの意見を聞いてから考えたい。ボランティアが集まるか心配。
【60歳代 長浦】	袖ヶ浦市は地域的なまとまりがあるとは言えない。(木更津市波岡は)参考になるが少し厳しい。
【50歳代 昭和】	問題意識を強く持ち、自分の周りの生活向上に踏み出す気概が素晴らしく、他人任せ、行政任せにせず、自分が動き出す力が今日聞こえてきた。しかし昭和地区は交通の便が良く危機意識が低いように思える。
【50歳代 長浦】	必要性を感じながらも、一步を踏み出しにくいと考える方が多いと感じる。各地での小さな集会での話し合いが先決だと思う。
【70歳代 地域不詳】	袖ヶ浦市は30年前から問題にしていたが前進なし。車の手配は行政に依頼し、運転は移送ボランティアに依頼し、官民一体の運営にしてはどうか。行政は声を大にして取り上げ現実化できるよう官民で共助されたい。
【50歳代 根形】	バス事業者と喧嘩したくはないが、バスの便数の少ないことが住民のストレスになっている。公共交通の不足分を補う形が求められているが、持続性を考えたスキームを作れるかに不安がある。
【70歳代 昭和】	ガウランドが運行しているマイクロバスを利用することも考えてはどうか。そのためにはコースの再考も必要であるが・・・

【40 歳代 長浦】	住民が集まる場所で話し合いを持って地域によって合った形で立ち上げていけたらと思った。
【60 歳代 昭和】	自治会長を経験し、顔の見えない老人が増えている現実に危機感をもった。バスによる外出が対策になればと期待を持った。ライフサポート波岡の例を確かめ、可能性を探りたい。
【70 歳代 昭和】	簡単に気安く話し合いができる場を行政にお願いしたい。
【40 歳代 昭和】	NPOを運営する身として協力したいと思います。前向きに考えたいです。
【40 歳代 昭和】	ボランティアの活動だけでは大変そう。行政とボランティアの協力が必要。生活バスがサロン化しているところが素晴らしい。